「事務システム課の2年を振り返って」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2009-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 隆 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/4318

事務システム課の２年を振り返って

事務システム課長　　中村　隆

それまで情報関連業務にまったく無縁であった私が、何もわからないまま事務システム課に配属されて今年３年目を迎えた。

配属時は、2002年10月より開始された、新教学系システムの稼動年であったが、作業の遅れによる対応作業のため、また、年度初めの年度末、年度初めの処理のため、課員は毎日遅くまで作業に従事し、１年半前から続く開発作業等による疲労はピークに達している状態であった。また、夏には、事務室の移転が計画されて、さらに秋からは、法人系システム開発の着手が予定され、これからどうなるのか見当もつかない状況であった。

幸いにして、課員の頑張りにより、この難局をなんとか乗りきることができた。しかしながら、新教学システムも稼動はしたものの、その後もシステムの不具合への対応に多くの時間を要することになった。

教学システムに続き、法人系システム開発が当初の予定より半年遅れで、2005年４月から開発計画策定作業に着手することになった。作業の着手に当たっては、当課の開発要員体制を考慮して緊急性のある財務系システムの開発作業を先行して着手し、人事系・教育振興系システム開発については、財務系システム開発終了後に着手することにした。また、教学系システム開発の経験を踏まえ、システム計画の段階からシステム開発全般に渡り、開発の進捗管理を含めたコンサルタント業務を外部業者に依頼することにした。開発作業は、プロジェクトメンバーの精力的な取組みにより概ね順調に進捗している。

一方、それと並行して、教学システム開発で積み残した、教学からの要望の強いＷｅｂ履修登録システムの開発にも着手した。この開発では、構造的に優れた鹿児島大学のシステムに出会い、これをベースに共同研究の名目で鹿児島大学の担当教員と当課担当者とが連携して意欲的にシステム開発に取り組んだ結果、短期間のうちに懸案であったシステムを構築し、実施学部は限定的ではあったが、２００６年度から稼動することができた。

いずれにしても、配属から現在まで当課では、システム開発作業に終始した２年間でもあった。

この２年間を振り返って、①本学には、事務システムを含め、全学的な情報化の長期計画を策定する部署がないため、長期的展望に立った情報化計画ができにくいこと、②事務システムの開発・改善・改修に当たり、各部署からだされた要望を調整する部署がないため、実施の取捨選択が難しいこと、③当課は、事務システムに係るすべての設備・機器・システムの維持・管理・運用(・支援)を担いつつ、システム開発・改修にも携わっているが、これらの業務を熟すには、要員が不足しており、当課が担うべき役割を十分には熟せないでいること等を大きな問題と感じている。

現在、事務機構改革の実施に向け検討か進められ、また、情報科学センタースタッフを中心に情報科学センターの解体、それと併せて総合情報システム協議会及び事務システム推進計画委員会の見直し、情報科学センターに変わる新しい組織として情報基盤センター設置構想の検討が進められている。

現在進められているこれら組織改革の中でここに掲げた問題が解決できることを期待したい。